

林床畑わさび栽培の増収対策

(岩手園試高冷地開発センター)

1. 背景とねらい

畑わさびは近年の消費多様化の中で嗜好性食品に対する需要を背景として今後とも消費拡大が期待できる有望な品目である。

現地では葉柄や根茎等を加工原料用として出荷しているが、収量の低いことが問題となっており、その栽培法の改善が急がれている。また4月から5月頃発生する生食用花茎の出荷も増加している。そこで、畑わさびの林床栽培において育苗法の改善と花茎の除去処理による増収対策ならびに花茎の簡易鮮度保持対策を検討してきたのでその成果を指導上の参考に供する。

2. 技術の内容

1) 畑わさび林床栽培で、定植2年目の収穫時に葉柄、根茎等の加工原料用わさびの増収を図るためには大苗利用と花茎除去処理の効果が高い。また大苗利用により生食用としての花茎の収量も増加する。

(1) 苗重100g以上、葉柄数6～8本程度の苗を用いると加工原料用わさびの株当たり収量目標は1000g以上となる。(表1, 2)

(2) 目標とする定植苗を生産するために育苗はハウス育苗を基本とし、10月上中旬には種して年内に仮植し越冬させる。(表2)

(3) 10月上中旬には種するためには種子を採種後、湿砂に混合し5℃程度で貯蔵する。は種予定の10日前から5℃前後の低温庫でジベレリン処理を行いは種する。発芽のための育苗温度は10℃前後とする。

(4) 花茎が発生後、花茎長30cm～40cm時の開花前に地際より花茎を除去する。除去した花茎は生食用として調整し出荷するが、OPP防曇フィルムにより鮮度保持対策を行う。

2) 適応地域 県下全域

3. 指導上の留意事項

1) 品種はだるま系などを利用する。

2) ハウスの保温管理は外部ビニール+トンネル程度で管理し、徒長しない充実した苗を育成する。また4～5月頃の日射の強い時期は25℃を目安に換気に留意する。

3) ハウス内への仮植距離は10cm×10cm、林床へ定植する栽植距離は40cm～50cm×40cm～50cmとし、植栽本数を確保する。

4) 畑わさびの花茎の鮮度保持は水揚げや予冷による効果も認められるが、OPP防曇フィルムの効果が高い。花茎の収穫時期はつぼみが白くなりはじめたときとし、

収穫作業は涼しい時間に行い早めにOPP防曇フィルムで包装する。水揚げにOPP防曇フィルムを併用する場合には水揚げ終了後包装する。

4. 試験成績概要

表1 掘り上げ時の株当り収量（加工原料用）（定植2年目）

苗重 (g)	花茎 ¹⁾ 除去 処理	全 重 (g)	葉 身 重 (g)	葉柄+ 根茎重 (g)	根 重 (g)	葉 柄 長 (cm)	葉 柄 数 (本)	分けつ茎		根 茎		
								総数 (本)	根茎 つき (本)	径 (cm)	長さ (cm)	重量 (g)
200g	○	1,829	393	1,283	153	52	71	7.7	4.3	2.9	11.0	75
以上	×	1,013	247	693	73	44	57	6.0	3.7	2.5	9.0	50
100~	○	1,831	453	1,245	133	51	80	7.0	3.7	2.8	9.0	60
200g	×	923	200	650	73	46	58	7.7	3.3	2.2	7.3	50
50~	○	775	100	570	105	42	31	4.0	4.0	2.6	8.0	45
100g	×	560	135	365	60	40	44	3.5	2.5	2.7	7.8	35
50g	○	600	110	420	70	41	45	5.0	3.3	2.3	6.7	34
以下	×	625	140	420	65	47	43	4.3	3.0	2.7	6.8	35

* 調査時期 : 平成4年10月5日

花茎除去処理¹⁾ : ○ ; 処理有, × ; 無処理

表2 苗質

は種日 (月・日)	育苗法	仮植時 ¹⁾		定植時 ²⁾						
		草丈 (cm)	葉数 (葉)	草丈 (cm)	葉柄数 (本/株)	葉身長 (cm)	茎径 (cm)	根長 (cm)	苗重 (g)	分けつ茎 (本/株)
①10・1	地床	12.5	2.0	57.9	8.0	16.1	1.8	17.1	156.8	1.0
②10・20	地床	4.6	0.6	45.3	6.2	14.4	1.8	18.0	95.4	0.6
③ 3・10	セル苗 ³⁾	-	-	7.9	1.9	3.1	-	9.9	1.2	0

仮植時¹⁾ : 平成3年12月24日調査 定植時²⁾ : 平成4年 5月 7日調査

セル苗³⁾ : 162角, 用土; ヴィルフレント